授業科目名・形態	母性看護学概論　　講義	必修・選択の別	必修	単位数	1
科目担当者氏名	岩間　薫	実務経験の有無	有	開講期	1年後期
科目ナンバリング	N5-1006npmht				

【授業の主題】

リプロダクティブ・ヘルス／ライツの概念と意義を基盤に、女性のライフステージ各期の特徴や発達課題等から対象者を理解し、多岐にわたる女性の健康問題とその看護の基礎的知識について学ぶ。人間の性と生殖について理解し、母性看護における意義・生命倫理・看護倫理や具体的業務内容・責務・看護師の役割等について学ぶ。また、わが国および諸外国における母性看護の歴史的変遷と現状を母子統計、組織・法律、母子保健施策等から学ぶ。

【到達目標】

1. 母性看護の基盤となる概念と意義について理解する。
2. 母性看護の対象を取り巻く社会変遷と現状について理解する。
3. 女性のライフステージ各期における看護問題および看護について理解する。
4. 母性看護と倫理問題について理解する。

【授業計画・内容】

第1回　母性看護の基盤となる概念①
第2回　母性看護の基盤となる概念②
第3回　母性看護の対象を取り巻く社会変遷と現状①
第4回　母性看護の対象を取り巻く社会変遷と現状②
第5回　母性看護の対象を取り巻く社会変遷と現状③
第6回　女性のライフステージ各期における看護
第7回　リプロダクティブヘルスケア①
第8回　リプロダクティブヘルスケア②、まとめ

【授業実施方法】

基本的には講義形式で行うので主体的に授業に参加すること。
第6～8回　グループワーク：課題を提示して資料作成、その後発表してもらいます。

【事前・事後学習】

課題学習、試験対策等を含めトータル30時間程度の自主学習を行うこと。

【主な関連する科目】

リプロダクティブ・ヘルス／ライツ、母性とセクシュアリティ、母性看護方法論Ⅰ、母性看護方法論Ⅱ、
母性看護学実習、助産科目

【教科書等】

系統看護学講座　専門分野Ⅱ　母性看護学［1］母性看護学概論　（医学書院）

【参考文献】

適宜提示

【成績評価方法】

筆記試験90%、授業への取り組み姿勢・グループワークの発表内容・提出物等10%により総合的に評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

国公立大学医学部附属病院で助産師として産婦人科病棟や外来において母性各期にある女性や妊産褥婦およびその家族への対応や看護等の実務経験あり。

実務経験から得た母性看護における知識や技術を妊産褥婦および新生児の看護や援助等を行うための授業に活かしていきたい。

【学生へのメッセージ】

- 母性看護方法論Ⅰ・Ⅱや母性看護学実習の基礎となります。
- 初めて耳にする専門用語が授業中、多く出てきます。必ず、復習してください。